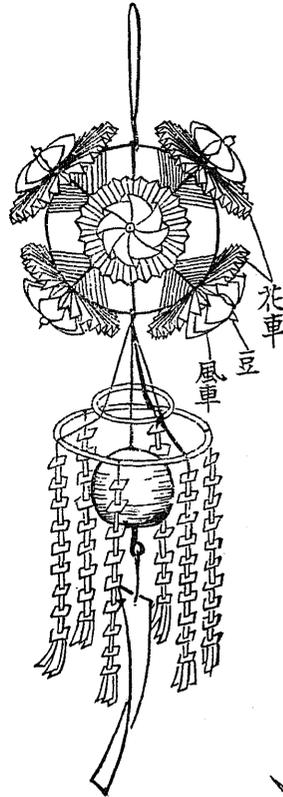


幼稚園に於ける室内 裝飾品の作り方

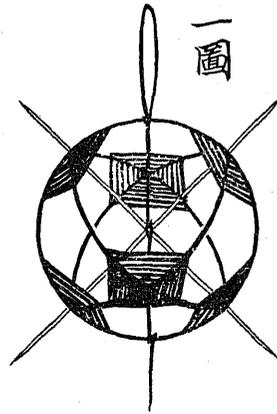
藤 五代 策

一、風鈴の拵へ方

これは、麥稈と、紙と、竹と、豆と、糸と、鳴



一圖



同じ大きさに三つ拵へ、それを嵌め合せて、十文字

二六

になつた所を何れも麥稈で組むのです。それから胴の直径より三四

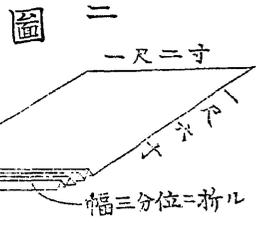
子とで拵へるので、圖のやうに、胴と、花車と、風車と、下りから出来て居るのです。

(胴) は(一)圖のやうに作るので、提灯の骨竹の大きいのも使つて、曲尺で直径五六寸位の輪を

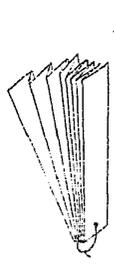
も結んで、上下から引つ張つても大丈夫にして置くのです。

(花車) は六つ要ります。清帳紙の色紙(日本紙の稍厚い手工紙)ならば丁度工合がよいです。

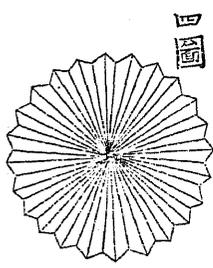
他の色紙ならば、長さ一尺六寸幅一尺二寸の長方形に切り、これを(二)圖のやうに折り疊んで、疊んだまゝ二寸づつに切りますと



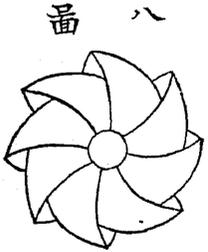
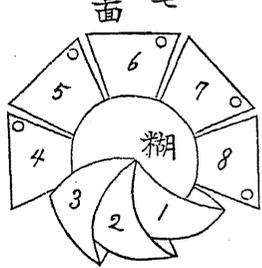
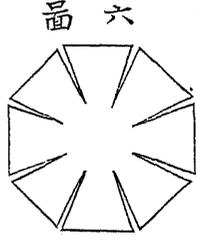
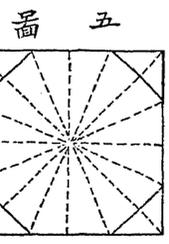
丁度六つ取れます、そこでそれ(三)圖の如く一端に糸を通して極緩く結び、糊をつけ、圓く廣げて貼り合せると(四)圖のやうになります。



(風車) これも六つ要ります。花草の色とよく配合する色紙を三寸四角位に六枚切り取り、これを、夫々



(五)圖の點線の如く十六等分に折り、そして四隅を切り落しますと八角になりますから、(六)圖のやうに切り込むのです。それか



ら、別の紙を直徑七八分位に圓く切り、(六)圖の真中に乗せて貼付の臺とし、

(七)の如く、○印の角に糊をつけて番號の順に貼りま

す。お仕舞の八番目のは、一番目の下に、少しもぐり込むやうに貼るのです。そして裏表共中程に小さな圓い他の色紙を貼ると(八)圖のやうになります。貼り上げたのは、ふくらんで居ねばなりません。

中の方に糊がついて裏表がひつつき合つたり、押しつぶしたりしてはなりません。糊が乾いたら錐で真中をつき通し、串孔をあける

のです。

(下り) は一番初めの圖のやうに、骨と總と鳴子とから出来てゐます。骨は竹で大小二つの輪を丈夫に作り、金紙でも巻きつけて置きます。總は五六分程に切りたる麥稈と、小さな色紙とを、一つ置きに糸につなぐのです。鳴子は店に賣つて居る硝子製の金の玉の風鈴を使へばよいのですが、又、板硝子を、短冊形や菱形などに切つて拵へてもよいです。

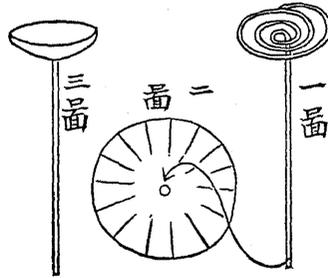
これで各部分が調ひましたから、これらを、夫々組み合せて仕上げるのです。

(仕上げ) 胴にさしてある骨竹の突き出してある所に、何れにも、先づ花車を刺し、次に豆を刺してこれを押へ、次に風車、次に又豆を刺して留めるのです、それから胴の提げ緒の下に下りを結びつけるのです。これで風鈴は出来上りました。こんどは、

二、菊の花の拵へ方

これは、麥稈と、紙と、針金とで拵へるので、まづ莖の作りかたからお話いたしませう。

(莖) は夜着綴ち針位の針金(十九番か二十番位)を一尺二三寸位切り取り、その一端を(一)圖の如く、うづまきの形に曲げて、花瓣をつける臺即ち花托にするのです、この



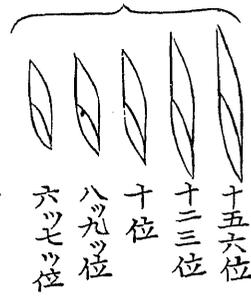
花托には紙を貼りつけて置きます、その紙は清帳紙の淡綠色を二圖の如く圓く取り、周圍を幾つも切り込み、真中に鏝で孔をあけ、飯糊をつけて莖を突き通し、針金の裏より表にかけて針金にすると、三圖のやうになりますから、その上に花びらをつけるのです。

(花瓣) は、花の色を麥稈を、割れないやうに鉄で(四)圖の如く切れば、それで出来るのです。し

四番

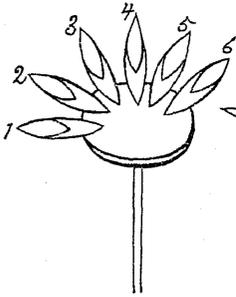
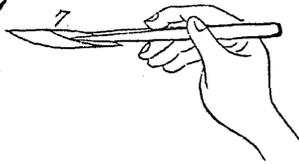


五番



十五六位
十二三位
十位
ハツツ位
六ツツ位

六番



かし、(五)圖

のやうに敷も
澤山要るし、

また、大さも

四種か五種位

に大小を作ら
ねばなりませ
ん。

花びらを花

托につけるの

は、糊ばかり

ではすぐ落ち

ていけません

から、綿を極

小さく切り刻

んで飯糊に煉

りませ、これ

に、黄の染粉

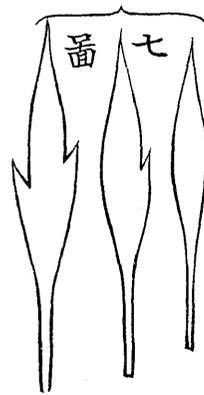
を少し加へると、黄色の糊綿が出来ます。そこで、

此の糊綿を花托の上に布き、その上に長い花瓣か
ら(六)圖の如く、番號の順に一廻り貼りつけ、次
に、糊綿花瓣、
糊綿花瓣とい
ふやうに、次
第に、二廻り
三廻りと着け
て行くのです
中央部は糊綿
ばかりで盡に
なるのです。
これで花は出
来ましたか、
ちよつと傍に
立てて置いて
別に葉を作り
ませう。

八番

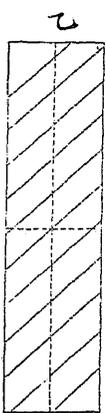


七番



(葉)には、平たく熨した麥稈を使ふのです。その熨し方は、細筆の帽子のやうに一方を割り通し、これを廣げて板の上に押へつけ、胴切りにした竹ですりますと立派に熨ります。小さな若葉を作るには、熨した麥稈をそのまま(七)圖の如く切ればよいですが、大きな葉は(八)圖の如く作るのです。

先づ(九)圖(甲)及(乙)の如く、長さ四寸幅一寸位の淡綠色の紙



一枚は左斜に貼り、二枚共(乙)の點線の如く、十文字に四等

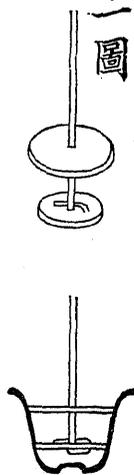
色の紙を二枚とり、これに葉色の展ばした麥稈を、一枚は右斜に、

十圖



分に裁ち切りて四枚とし又別の淡綠色の紙に、(丙)の如く少しく間をあけて貼り合せるのです。

十一圖



そして葉の形に切り取るのです。なほ、この種の葉には柄をつけねばなりません。それは、小さな

針金に薄く緑色の紙を巻きつけ、これを適當の長さ
さに切り、葉の裏より飯糊で貼りつけるであります。

かやうにして全部調ひましたらこれから、(十)
圖の如く取り立て、仕上げるのです。

出来上つたら鉢などに挿すのです、その挿し方
の一法をお話して置ませう。それはボール紙な
どの厚い紙を、鉢の底と口とによく嵌まるやうに
二枚切り取り、真中に錐で穴をあけ、それに花の
脚を挿して十一圖の如くするのです。その下の圖
は鉢に挿した所を側面から見た圖です。そして上
の方には、砂や苔などをのせて置くのです。

主客問答

客、夏休中に大層御園に草が生えましたな。

主、はい。お蔭で子供は大喜び、摘草も出来れば

「おまゝごと」の材料も出来うばつたも住め
ば「こぼろぎ」も居る。まあ子供が充分遊んで
踏み荒らすまでは此まゝ大切に生やして置き
ませう。

隨感

安井 哲

先頃或方のお話に、「私は何の學問も御座いませ
んから幼稚園の保母にでもなつて身を立てたいと
存じます」といふ事をうかひました。又近頃或
方は、「私も次第に年をとつてまゐりましたから、
幼稚園の保母にでもならうかと思ひます」といは
れました。

私は今此お二人を批評しやうと申すのでは御座
いませんが、之れに就いて大に感ずる所がありま
すので、茲に一言述べたいと思ふのであります。
私はまだ幼稚園には素人で御座います。其故に
幼児といふ者は如何なる者で、如何に彼等を教育
するのが幼稚園の任務であるかといふ様な事を、
學者や先輩からうかひつて見、又自分でも研究し
つゝありますので、其結果今日では非常に貴い、
非常に興味のある、研究の餘地の甚多い、且又困